





CONTENTS	目 次	2023	October	Vol.1	49
巻 頭 言	建設コンサルタント業の皆様と共に		北陸地方鏨	を備局長 遠藤仁彦	1
特 集	北陸新幹線 (金沢〜敦賀間)の開業に向けて	鉄道建設・	運輸施設整備支 北陸新幹線	****	2
寄 稿 文	越後国都の三城郭 上越市の春日山城、福島城と高田城	元上	上越市学芸員 小	、島幸雄	6
ちょっと気になる コーナー	7,641の島々からなる常夏の国 フィリピン共和国		中越交通杉 常務取締役 山		10
お知らせ	白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬 開催報告	技術	所部会 建設環境 広報部会 広報		12
お知らせ	技術セミナー 「グリーンインフラがもたらす新潟の未来」 開催報告	技術	衍部会 建設環 境	竞委員会	14
お知らせ	令和 5 年度 北陸支部防災演習	災鲁	言対策部会·総務	务委員会	17
	会員名簿 役員·委員会名簿			事務局	20
	編集後記		Щ	田嘉貴	
	[題字] [表紙・裏表紙写真]				

廣瀬利雄 揮毫

元北陸地方建設局長 タイトル 松雲山荘の紅葉 撮影地 柏崎市緑町

巻 頭 言

建設コンサルタント業の皆様と共に



北陸地方整備局長 遠 藤 仁 彦

建設コンサルタント業は、これからの社会資本の整備・活用をリードし、多様化する役割と拡大する領域を担い、技術を磨き技術を競うとともに優秀な技術者が活躍する、という魅力と展望のある知的産業として発展することが期待されています。

建設生産システムの「上流部」から「下流部」 にいたる幅広い範囲で、技術サービスの提供者と して機能しており、皆様の業務成果そのものが、 社会資本の品質を左右するなど大きな影響を与え る業種です。

そのため、北陸地方整備局では、設計業務等の 契約に関する一連のプロセスにおける段階毎に品 質向上に向けた取り組みを位置付けており、「業務 品質向上会議」などを通じて、受・発注者のコミュ ニケーションの強化も実施しています。

北陸地方は、豊かな自然や歴史的な文化を持つ 一方で、洪水、土砂災害、雪害や地震などの自然 災害の驚異にさらされています。建設コンサルタ ント業の皆様には、道路や河川、港湾などのさま ざまなインフラの対応のみならず、地域の特性や ニーズを理解し、安全・安心な生活基盤の実現や 時に災害時の緊急対応など、幅広くご活躍頂いて います。

それぞれの立場においてベストな対応がなされるよう、共に新しい取り組みを進めさせて頂きたいと思います。

特に、働き方改革の推進における、労働時間の削減やワークライフバランスの向上に向け、発注者として、国債や繰越制度を活用した適正な工期の設定、平準化に取り組んでおりますし、今年度から BIM/CIM の原則適用により、DS (データシェアリング) による業務内容や範囲などを受発注者間で共有・確認をすることで、作業時間やコストの削減、品質の向上に寄与する取り組みを進めています。

また、「ウィークリースタンス」(マンデー・ノー ピリオド、フライデー・ノーリクエストなど)に も取り組んでいます。

建設分野のDXに関しては、建設コンサルタント業の皆様が、建設関連産業全体のDX推進において重要な役割を担っていると考えています。様々な取り組みを推進・発展させる事で、生産性の向上、担い手確保・育成にも繋がるものと期待しています。

発注者としては、企業の適正利潤の確保、魅力 ある職場づくりの推進に向け、的確な設計変更の 実施にも取り組んでまいります。

お互いの良い関係が引き続き維持継続できるよう、皆様と共に歩みを進めてまいりたいと考えています。

北陸新幹線

(金沢~敦賀間)の開業に向けて

(独) 鉄道建設·運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設局

1. はじめに

北陸新幹線は、東京から高崎・長野・富山・金沢等 を経由して大阪へ至る路線であり、1973年に整備計画 が決定された。東京〜高崎間は上越新幹線と共用、高 崎〜長野間は1997年10月に、長野〜金沢間は2015 年3月に開業した。

金沢〜敦賀間は、金沢駅から小松駅、加賀温泉駅、 芦原温泉駅、福井駅、越前たけふ駅を経由し、敦賀駅 に至る、線路延長125kmの路線である。このうち長野 〜金沢間で工事が完了していた金沢駅から白山総合車 両所間を除く約115kmが工事延長となっている。金沢 〜敦賀間は、2012年6月に工事実施計画(その1)の 認可を受け、トンネル・橋りょう工事等に着手、2017年 10月には同(その2)の認可を受け、建築工事、軌道・ 電気・機械などの設備工事にも着手し、鋭意進捗を図ってきた。現在は、来春の開業に向けて、営業主体のJR 西日本とともに監査・検査を行っているところである。

2. 事業概要

(1)路線概要

当区間は、図-1に示すとおり金沢駅から約12km 終点方にある白山総合車両所付近から敦賀車両基地 (正式名称は白山総合車両所敦賀支所)までが工事 区間となっている。JR 北陸本線と白山総合車両所に 挟まれた区間を通過し、一級河川手取川を渡河(手 取川橋りょう)すると、JR 北陸本線と2 度交差し、 小松駅に至る。

小松駅を出ると木場潟・白山を左手に望み、一般 国道 305 号と交差したあと、加賀温泉駅に至る。加 賀温泉駅を出ると一般国道8号と交差(加賀細坪架 道橋)し、加賀トンネルに入る。トンネルを抜けると 福井県内となり、JR 北陸本線と交差した後、芦原温 泉駅に至る。

芦原温泉駅を出ると、一級河川竹田川を渡河(竹田川橋りょう) し、さらに一級河川九頭竜川を渡河すると(九頭竜川橋りょう) 福井市街に入る。さらに、JR 北陸本線とえちぜん鉄道との狭隘な区間を通過し

工事延長	約115km				
設計最高速度	260km/h				
最小曲線半径	基本4,000m				
最急こう配	26‰				
	路盤	約 1.7km (約 1%)			
構造物種別	橋りょう 約 15.3km (約 13				
1件、足1001至701	高架橋 約 59.2km (約 52%)				
	トンネル	約 38.4km (約 34%)			
	小松駅	(併設・高架橋) 小松市			
	加賀温泉駅	(併設・高架橋) 加賀市			
10·100 IR	芦原温泉駅	(併設・高架橋) あわら市			
ax IIII 例	福井駅	(併設・高架橋) 福井市			
	越前たけふ駅 (新設・高架橋)越前				
	敦賀駅	(併設・高架橋) 敦賀市			
車両基地	敦賀車両基地				

表-1 北陸新幹線(金沢~敦賀間)の工事概要

て、福井駅に入る。

福井駅を出ると、一級河川足羽川を渡河し、JR貨物南福井駅までの間をJR北陸本線と並走する。その後、国道8号および北陸自動車道と交差(福井架道橋)し、第2福井トンネルなど4つのトンネルを経て、再度、北陸自動車道の武生IC手前で同自動車道と交差(武生架道橋)した後、越前たけふ駅に至る。

越前たけふ駅を出ると武生トンネルを通過し、一級河川日野川を渡河(日野川橋りょう)した後、脇本トンネルに入り、そのままスノーシェルターで繋がった当区間で最長の新北陸トンネルに入る。新北陸トンネル出口付近はラムサール条約登録湿地である中池見湿地となるため、環境への影響を最小限に抑えるべく、ルート線形を修正している。新北陸トンネルを出た後は、北陸自動車道と交差(樫曲架道橋)し、深山トンネルを経てJR北陸本線を跨ぐ国道8号敦賀バイパスを越えて、終点の敦賀駅に至る。

敦賀駅は、在来駅の東側に併設され、軌道面は地上23 m、7 階建てビルの屋上に相当し、さらに全覆上家の高さは地上37m、12 階建てビルと同等の高さとなり、整備新幹線の駅として最大である。

名古屋・大阪方面からの在来線特急列車と新幹線と の乗換利便性の向上を図るため、1階に特急列車ホーム、



図-1 北陸新幹線 (金沢~敦賀間) 平面図

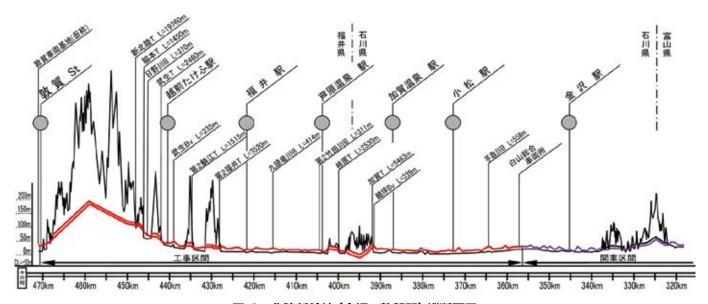


図-2 北陸新幹線 (金沢~敦賀間) 縦断面図

2階がコンコース、3階を新幹線ホームとし、上下階をエレベータ・エスカレータで結び、また乗換改札を多数設置し、乗換に必要な時間の短縮を図っている。

(2) 主な工事

当区間の構造物の延長および構成比は、表-1のとおりである。主な橋りょうおよびトンネルは、表-2のとおりとなる。

主な橋りょうとしては、一級河川手取川を渡河する当区間最長となる手取川橋りょう558m、コンクリートの鉄道橋としては東北新幹線の三内丸山架道橋を上回る最大支間155mを誇るエクストラドーズド橋の加賀細坪架道橋339m、道路橋と橋脚を共有する併設橋である九

構造物	造物 名称			
	加賀トンネル	5,463		
	柿原トンネル	2,530		
トンネル	第2福井トンネル	3,520		
	武生トンネル	2,460		
	新北陸トンネル	19,760		
	手取川橋りょう	558		
	加賀細坪架道橋	339		
橋りょう	第2竹田川橋りょう	311		
個ツより	九頭竜川橋りょう	414		
	武生架道橋	335		
	日野川橋りょう	310		

表-2 主なトンネルと橋りょう



写真-1 手取川橋りょう



写真-3 白山の雄大な山並みと未来を感じる小松駅



写真-5 あわら温泉の癒しと旅情が漂う芦原温泉駅



写真-7 コウノトリが飛翔する未来への道標となる 越前たけふ駅

頭竜川橋りょう 414 mなどがある。

トンネルとしては、南越前町から敦賀市に至る新北陸 トンネル 19,760m があり、鉄道トンネルとしては国内 6 番目の延長となる。

駅舎工事に関して、デザインは、地元の自治体からいただいたコンセプトをもとに、地域の伝統、文化などを反映したデザインとしている。駅の内装には、このデザインコンセプトに基づき、地域の特色を表現するため、可能な範囲で県産材などを取り入れ、かつユニバーサル



写真-2 加賀細坪架道橋



写真-4 温泉郷の風情と城下町の歴史を感じさせる 加賀温泉駅



写真-6 悠久の歴史と自然がみえる福井駅



写真-8 煌めく大海から未来へ飛翔する敦賀駅

デザインを採用し、親しみやすく利用しやすい駅舎として整備している。

軌道工事については、新幹線ではメンテナンスが容易で安定性が高いスラブ軌道(コンクリート版の上にレールを敷く)を採用しており、最長で約30km/本のロングレールを採用している。

電気工事は変電所、電車線、電力、通信、信号工事などがある。機械設備工事は駅のホームドア、昇降設備、 散水消雪設備などがある。



写真-9 敦賀車両基地 (上空より)



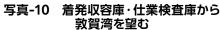




写真-11 仕業検査庫内



写真-12 スラブ軌道

敦賀市内に設置される敦賀車両基地は、基地延長約1.5km、最大幅約160mの中に、着発収容線7線、仕業検査線2線、融雪線1線および臨時修繕線1線の全11線を配線し、車両の点検を行う仕業検査庫や折り返し車両が待機する着発収容庫などが並ぶ。敷地面積は、隣接する変電所、保守基地などの関連施設を含めると12haとなり、東京ドームの2.5倍の広さとなる。

3. 開業による効果・影響

北陸新幹線の整備事業は、全国新幹線鉄道整備法に基づき実施されるものであり、現在、建設中の北海道新幹線・リニア中央新幹線と同様に、「新幹線鉄道による全国的な鉄道網の整備を図り、もって国民経済の発展および国民生活領域の拡大並びに地域の振興に資すること」を目的としている。

金沢~敦賀間の開業により、東京~福井間の鉄道所 要時間は3時間14分から2時間53分となり約20分の 時間短縮、大阪~金沢間では2時間31分から2時間2 分となり約30分の短縮、また、富山~福井間では1時 間9分から44分と約25分の時間短縮が見込まれる。注)

このように新幹線整備効果の特徴である速達性、大量輸送がもたらされることにより、沿線地域の豊富で多彩な観光資源の魅力が高まり、人々の余暇活動の拡充や広域的な活動を促し、生活の質の向上に寄与することが期待される。

また、新幹線の安全性や特に当区間の豪雨・豪雪時の輸送の安定性がもたらされ、災害に強い高速交通機関としての期待も高まるところである。さらには、近い将来に発生が予想される東南海地震等の影響を受けにくい地性的要因も相まって、太平洋側の基幹交通に対する代替ルートとしての機能(リダンダンシー)への期待が大きい。

4. おわりに

北陸新幹線の整備については、地元の皆様のご理解 や関係者のご協力・ご尽力を賜り進めてきたところであ り、現在、来春の金沢〜敦賀間の開業に向けて、実車 両を使用した総合監査・検査を行っている。この後、国 土交通省による完成検査、訓練運転を経て開業となる。

鉄道・運輸機構は建設主体として、無事開業を迎えるよう組織一丸となり来春の開業を目指しているところであり、今後とも、地域の皆様方や石川・福井両県をはじめとする関係行政機関の一層のご支援、ご協力を心よりお願いしたい。

注)乗換所要時間は含まない。

越後国都の三城郭上越市の春日山城、福島城と高田城

元上越市学芸員 小島幸雄

1. はじめに

今年の大河ドラマは徳川家康を取り上げた「どうする家康」が放映されています。皆さんがご存じのように、家康は三河国(愛知県)岡崎城主の家に生まれ、戦乱の世を生き抜き征夷大将軍にまで上り詰め江戸幕府を開いた人物です。天文11年(1542)生まれというから、当上越市の戦国時代の名将上杉謙信(享禄3、1530年生まれ)の12歳年下です。

ところで、上越市には家康が「どうする?」と考え 抜いて生きた時代に存在した、または築かれた、越後 国主の城が3城郭知られています。上杉謙信の居城と して知られる春日山城、謙信の後継景勝に替わって春 日山城主となった堀氏が築城した福島城、堀氏に替 わって福島城主となった家康の六男松平忠輝が築いた 高田城、いずれも越後国主の居城にふさわしい大城郭 です。皆さんとともに上越市内にある大城郭を巡り、 「どうする家康」と同時代の越後国都で設計された城 下町の都市計画を尋ねてみます。

2. 上杉謙信・景勝が整備拡張した春日山城

春日山城が築かれた越後府中の景観を見てみましょう。府中は今の直江津地区の関川左岸の河口近くの砂丘と南の自然堤防にありました。直江津には越後守護の館と、関東管領上杉憲政を迎えて造営したとされる御館をはじめ諸将の館があり、少し離れた山塊に春日

山城がありました。



春日山城阯の標柱

ばれたと思われます。この景観は、後の福島城の築城 地の選択に影響を及ぼし、高田築城に際しても関川の 利用と城下町の形成に影響を与えています。

春日山城築城の時期については諸説があり、はっきりとした年代はわかっていませんが、永正10年(1513)守護上杉定実が守護代長尾為景の留守中に春日山城に籠城したことが知られるので、その頃には春日山城が存在したことが推測されます。今から510年前のことです。守護が春日山城に籠城したとありますが、10日足らずで守護代によって府中に連れ戻されて為景の館に幽閉されたようですから、現在見られる要塞の春日山城ではなく、城とは名ばかりのものであったと思われます。

さて、天文21年(1552)謙信は北条氏の侵攻で上野国(群馬県)平井城を退去した関東管領上杉憲政を、越後府中に迎えることになりました。謙信は数え年23歳でした。府中とされる直江津地区の五智には「御館」という地域があり憲政の居館とされてきました。関東管領を迎えて建てられた館として「御館」と伝えられたと考えられていますが、必ずしも憲政のためだけの居館ではなく、関東管領となった謙信の政庁としても機能したものと推測されます。

ところが、憲政を迎えた謙信がその4年後、弘治2年(1556)突然出家を家臣に伝えています。出家は家臣たちの説得によって思いとどまっていて、謙信が越後統治の中心にあったと思われます。

さらに5年後の永禄4年 (1561)、謙信は憲政から 関東管領の職と山内上杉家を継承します。この時も憲 政の申し入れを一度は拒否したようですので、事を起 こすときの名分を重んじた謙信という人物の一面をう かがい知ることができそうです。

謙信は天正6年(1578)、突然この世を去りました。 直後に、春日山城を占拠した景勝と御館に移った景虎 の二人の養子による、「御館の乱」が始まるのです。 勝敗は春日山城に本拠を構えた景勝の勝利で幕を閉じ ました。

景勝の重臣直江兼続は、文禄3年(1594)に羽黒山に対し「信州か、越後可、居城か・・・」と上杉の居城の位置を伺っています。神意は春日山城に留まるこ

とだったようで、慶長2年(1597)に春日山城の普請を行っていますが、その翌年の慶長3年(1598)豊臣秀吉によって会津に国替えとなったのです。国替えは命令であり、もちろん景勝には「どうする?」と考える余地がなかったのです。

春日山城メモ: 国指定史跡(昭和10年指定、49·55年・ 平成12年追加指定)、所在地:上越市大字中屋敷字春 日山1357番の1他

3. 豊臣秀吉の重臣堀氏の福島城

景勝に替わって春日山城主となったのは、堀久太郎 秀治です。堀氏は秀吉の信望厚く、織田信長の後継を 秀吉と争った柴田勝家が賤ケ岳で敗れて自害した際、 勝家の居城だった越前(福井県)の北ノ庄城の城主に なったほどでした。高田の寺町に本誓寺という真宗寺 院があり、その由緒を書いた「越後本誓寺由緒鑑」に よれば慶長5年(1600)本誓寺の賢乗が登城した際に「山 城廃止に相成・・」とあることから、春日山城のよう な山城を廃止して平城を築いたのではという意見もあ るのですが、残念なことに全国的に命令を伝える文書 が未確認だそうです。

山城廃止はともかくここでもまた「どうする?」が 秀治の脳裏を占拠します。新城の場所選びです。現在 知られる福島城の位置は越後府中と関川を挟んで対岸 の上越市港町にあります。秀治の脳裏を分析してみま しょう。越後府中の機能は、政治的機能(春日山城と 府中)と経済的機能(府中と湊)です。この両者を備 えることが絶対条件であったからこそ、風待ち湊の国 府津(郷津)に近く、かつ艀で入船が可能な関川を使え、 府中の民を移住させる面積が確保できる場所を選んだ と考えられます。



福島城址の碑

て築城したのです。府中の民はそれまで見たこともなかった石垣を目の当たりにして驚愕したことは想像に難くありません。しかし、福島城は標高が低く、次の高田築城の都市設計が始まったと考えられるのです。石垣は高田築城後もそのまま残され、明治以降工場の敷地造成や基礎に転用され、学校建築などに利用されたそうです。城は慶長12年(1607)の完成です。

福島城メモ:未指定、所在地:上越市港町(旧古城 小学校ほか)

4. 徳川家康の六男松平忠輝の居城高田城

慶長15年(1610)、幕府は堀氏を改易とし、替えて 一族の松平忠輝を福島城主としました。忠輝は、福島 在城4年にして高田に新城を築くこととします。高田 城です。福島城は7年という短命の城でした。また、 高田城は、家康に仕えた徳川四天王の一人榊原康政の 後裔が藩主だったことでも知られます。

慶長19年(1614)、忠輝は高田築城に着手してわずか4か月足らずという短期間で完成させました。築城を急いだのでしょう、高田城には石垣がありません。 忠輝の築城に至る思考を推理しましょう。

まず、福島城は海に近く関川とも近く標高が低いことはそれだけでも知ることができます。本丸は石垣を積んで固く守られているので浸水を受けることは考えにくいのですが、城下町はというと平野を流れてきた河川の日本海への出口は関川のみで、関川右岸の河川の水が集水する場所であるため内水氾濫の危険性が考えられ、現代のような治水が備わっていなければ城下町は常に浸水の危険性があったと推測されます。忠輝の思考を、水害から民を護るということに絞って推理してみましょう。

高田城下町の都市計画を見てみます。城下町の町家は城の北から西を回って南まで、東に開くコの字形に配置されて、城より一段高くなっています。街道も通っています。城と城下町は河川(青田川)で結界を設けて総構とし、青田川の右岸は土塁で城への浸水を防い



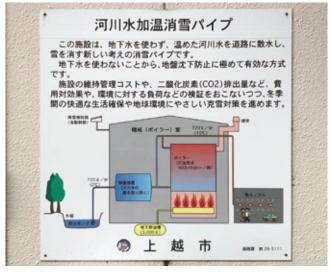
高田城址公園 (左が外堀)

でいます。城の東側は関川で、総構の内側の水は関川に排水するように計画されています。高田城下の都市計画は、関川の段丘(沖積地の段丘)の上に城下町を置くことで自然の堤防として浸水を防ぐ構造になっています。私の推理は福島城の水処理の脆弱さを根本的に解消し、城下の民の生活が水害で疲弊することがないように計画された、「防災都市=水害回避都市」ともいうべき忠輝の新構想の都市だったということなのです。また、城下町には儀明川を掘りかえた防火用の川もあります。

しかし、湊の機能とは離れてしまいます。これには 関川の改修、旧府中と高田を結ぶ流通幹線道路の整備、 街道の付け替えなどで機能低下を防いだと思われま す。古絵図に高田城下の荷揚げ場が関川に2か所描か れているのがその証です。



消雪パイプが敷設された道路とボイラー棟、左は外堀



ボイラー棟に付けられたシステムの説明版

城下町であったことを、現代の市民生活に生かした 事例もあります。外堀の南側一帯の南城町は、城町と あるように家臣団の屋敷地だったので独立した家屋で 雁木が無く、道路を人と車が共用していました。ここ に消雪パイプを入れることで、家臣団屋敷の街並みを残した道路整備が行われたのです。消雪用の水は関川の水を引いて外堀に入れ、外堀の水をくみ上げて温めて道路に配水する「加温消雪」というやり方で消雪しているそうです。堀があればこそ可能な消雪パイプで、忠輝の「どうする高田築城」の思考が現代の市民の生活に寄与していることを知り、築城 400 余年の星霜を経て忠輝の「どうする」が市民生活に役立っていることを認識したいものです。

高田城メモ:新潟県指定史跡(昭和29年指定)、所在地:上越市本城町、都市公園(高田城址公園)

| 5. 城という遺産が現代生活に果たす役割|

ここで話題を現代に移して、城という歴史遺産が現 代に果たすべき役割を考えてみましょう。城は長い歴 史の中で権力の中枢として築かれてきた地域の歴史的 なシンボルであるため、国や地方公共団体が史跡とし



高田城址公園観桜会

(公社)上越観光コンベンション協会提供

て指定している例も少なくありません。構造物が目に 見えるという意味では、歴史遺産として可視的な不動 産であるが故に住民の意識も高いと思われます。まず、 城という史跡の特性を見ます。①城は広い面積、空間 を有しています。②城には城主がいましたから地域の 人の記憶に残された人物と重なります。③廃城後は農 地や林、また学校などとして管理されてきましたから、 鬱蒼とした森というより管理された自然空間となって います。④史跡の現代史的意味は観光に寄与すること で、そこにしかない地域の特別な意味を来訪者に届け てくれることが最大の史跡に与えられる勲章かもしれ ません。城はその意味で評価が高いと思います。

このような史跡の特性から、時には市民生活、特に 災害時に役立つものでもあるのです。①の広い面積を 有することで大雨には土壌がダムの効果を発揮して保 水するでしょうし、一時的な防災拠点ともなりえます。 史跡は舗装面積が少ないのです。②は地域学習の拠点 として子供たちの情操を育み歴史意識を高め、地域住 民の憩いの場として使えます。③は町の中に緑の空間 が存在するのです。新設する必要がないので、財政出 動が抑えられます。④史跡の観光は無限です。利用者 のニーズで考えることができるのです。既成の与えら れる空間ではなく、テーマを自分で設定する空間とし て無限の価値を与えられているのです。史跡といえば 観光といっても過言ではないのです。

具体的に見ていきましょう。春日山城は大正年間まで山頂が段々に見え、山城らしい景観だったようですが、山の耕作地が次第に放置されて樹木に覆われるようになりました。平成になって春日山城にある杉が話題となり、斜面保護のために杉の伐採を始めました。景観は格段に改善されましたが、どこまで伐採すればよいのかも課題です。自然は私たちの思うようになりません。杉を除けば落葉広葉樹林になります。秋には紅葉し、冬は葉を落として山城の景観に寄与する、しかし、夏場は鬱蒼として景観を阻害します。難しいが、里山として生かす知恵を絞りましょう。

高田城は江戸時代を通じて城下町として栄え、町のシンボルとして市民に親しまれています。春の観桜会は、100万人以上の来場者を数えたこともありました。堀の「蓮」は東洋一の規模ともいわれ、7月から8月には外堀がピンクの花で埋め尽くされます。さらに、昭和29年市の第1号都市公園となって以来「高田公園」の名称でしたが、市民一人一人が自分のまちの成り立ちを知り自分のまちに対する理解を深めようと、令和2年4月1日「高田城址公園」と名称が変更され、城址の名によってより一層町の成り立ちを連想できる公園となっています。



(公社)上越観光コンベンション協会提供

6. 未来に届ける歴史遺産~結びにかえて~

上越市に残る3か所の大城郭の都市計画を見てきました。いずれも越後国主の居城で、このような大城郭が一つのまちに3城郭も残されている例は全国的にも 稀有なものなのです。

春日山城と高田城は現代にその姿を伝え、史跡として指定され保護されています。指定にはなっていない福島城も含め、私たちはこの三城郭を掛け替えのない地域の遺産として現代に生かすための施策にかかわる必要があります。活用と称した不要な破壊を慎み、歴史遺産を生かす行動を続けていくことが現代を生きる私たちに求められる使命なのです。

「どうする・・」と自身に問いかけ、私たちのまち の歴史遺産を未来に正しく届けましょう。



(公社)上越観光コンベンション協会提供



(公社)上越観光コンベンション協会提供

写真の解説

- (上) 謙信公祭で行われている出陣行列
- (下)謙信公祭のクライマックス川中島合戦の再現 (再現は春日山城史跡広場が会場となる)
- (左) 高田城北堀と日本スキー発祥記念館の遠望 (記念館はレルヒのスキー指導の中心となっ た金谷山に建てられている)



7,641の島々からなる常夏の国 フィリピン共和国

中越交通株式会社 常務取締役 山崎康裕

《フィリピンの基礎》

7,641 の島々が点在するフィリピンは、島の数と同様に伝統や文化も多彩です。スペインやアメリカの影響を強く受けた建築物や食べ物などが多く見られます。また、約50の火山があり、タール火山(311m)、マヨン火山(2,450m)、アポ火山(2,965m)などが有名な活火山と言われております。多くの島が点在する関係で2,229,438kmの領海があり、36,289 kmの海岸線もあります。その為、海洋生物や周辺に散在するサンゴ礁の美しさにも定評があり、世界中のダイバーの憧れの地でもあります。国民は、アジアに起源を持つマレー系、インドネシア系や様々な統治時代を経て

いる関係で多くのの混血の方もいらっしゃいます。日本人移民が戦前は2万人ほど住んでいました。日常の風習や生活態度にもスペイン、メキシコなどのラテン系諸国と似たところが見られます。言語も多く使用されていますが主な言語は、タガログ(マニラ周辺)、セブアノ(ビサヤ地方)、イロカノ(北部ルソン)、などありますがタガログを基礎とするピリピノ語(フィリピン語)を公用語としております。





▲パングラシアン島(エルニド)

◀伝統的な建物(ビガン)

【写真提供】(株)かもめ



▲ビッグラグーン(エルニド)



▲サント・ニーニョ教会(セブ)



▲ナルスアン島(セブ)



▲ジンベエザメ(セブ)



▲マゼランクロス(セブ)



▲ライステラス(バナウエ)



▲チョコレートヒルズ(ボホール島)



▲ターシャ(ボホール島)



▲サンアグスチン教会(マニラ)

《魅力》

東西の影響を受けつつ独自の発展を遂げたユニークな文化と歴史、マリンスポーツ、トロピカルフルーツにオーガニックのハーブ、カカオ、コーヒー、スパ、マッサージなど心身共に癒されるウエルネス、ロングステイ、リタイアメント、英語留学など様々なご体験が可能です!また、マニラ周辺を中心におよそ70のゴルフコースがあり通年で気軽に楽しむことができます。

ウエルネスツーリズム

フィリピンは癒しの島としても有名で、滞在中には適度な日光、運動、スキンシップでハッピーホルモンのセロトニンが活性化され、心のバランスや交感神経を整え、元気を心と身体に与えてくれます。一般的に健康増進のためのウエルネスツーリズムは、旅行中にスパ、エステ、マッサージ、フィットネス、ヘルシー食を通して、心と身体の健康に気づく旅のことですが、フィリピンのスパ&エステは高級な施設から、街スパと呼ばれる気軽に体験できるものまで様々あり、技術も上質だと評判です。フィリピン施術のヒロットでのフルボディや顔、手足のパーツなど、またネイルサロンもお勧めです。

食べ物

マンゴー、パパイヤ、 バナナ、パイナップル、 ドリアンなどのトロピ カルフルーツは地元 で完熟したものを安 価にそのまま、または



▲フィリピン料理 レチョン

ジュースなどにして堪能できます。カカオ、コーヒー、ハーブ、野菜など健康的なオーガニックフードを提供するカフェも増えています。従来のフィリピン料理だけでなく他の国で活躍しているシェフが帰国し、独創的で新しいフィリピン料理店をオープンさせていますので、機会があれば是非お立ち寄りください。

交通

コロナ禍の時は、運休していた航空機も徐々に戻って 参りました。様々な航空会社が運行を開始しております。 お出かけの際は、フライトや現地情報を調べてお出かけ ください。初めての方や海外旅行が苦手な方は、パッ ケージツアーも復活して来ております。それでは、良い ご旅行を!

お知らせ

白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬 開催報告

〈技術部会 建設環境委員会・広報部会 広報委員会〉

1. はじめに

富山県、石川県、福井県、岐阜県にまたがる白山は、古くから霊峰として栄え、山麓にはブナを中心とした自然林が、高山・亜高山帯にはクロユリなどの約250種の高山植物が広がり、一帯は国立公園に指定されています。しかしながら、近年はオオバコをはじめとした低地性の外来植物が侵入し、白山固有のハクサンオオバコと交雑するなど、環境影響が出ています。このような問題に対し、当協会では石川県との共催により、平成22年度からオオバコの除去作業を行い、ノウハウを得てきました。本年度はこれまでの実績を活かし、当協会の単独開催として、6月25日(日)に実施しました。

2. プログラム

1) 名称:白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬

2)場所:石川県白山市市ノ瀬駐車場周辺

3) 日時:令和5年6月25日(日)13時~16時

4) 参加:協会員及びその家族39名

5) 内容

①講義:白山におけるオオバコの影響と対策

②体験:オオバコ除去作業

3. 講義概要

はじめに、白山におけるオオバコの影響と対策について、講義を行いました。



【講義の様子】

(1) オオバコ (外来植物) が及ぼす影響

低地においては、身近な雑草として知られるオオバコですが、生命力が強く、一旦、高山へ進入すると、外部から隔離された環境でひっそりと生育する高山植物を駆逐してしまいます。また、高山植物の一つであるハクサンオオバコとオオバコが交雑し、遺伝子汚染が起こることも問題となっています。

(2) オオバコ (外来植物) の侵入状況

石川県白山自然保護センターの調査によると、オオバコは、標高2,000メートルを超える南竜ヶ馬場や室堂周辺にまで侵入しています。オオバコの種子は、雨水等で濡れてしまうとゼリー状の粘液を出して貼り付く性質があり、登山者の靴や荷物、ヘリコプターで運搬される物資などに種が付着して持ち込まれ、発芽し定着したものと考えられています。



【ハクサンオオバコ】

【オオバコ】

(3) 対策

自山ではオオバコの分布拡大を防ぐため、登山道の各所に種子除去用のマットやブラシが設置されているほか、降車時の侵入等を低減するため、駐車場をアスファルト舗装としています。さらには、山小屋や登山道、登山口において、毎年多くの団体がオオバコ等外来植物の除去作業を実施しています。

(4) オオバコ (外来植物) の除去方法

オオバコの除去作業は、「根切り」と呼ばれる専用 の道具を用いて行います。この根切りによってオオ バコの成長点を含めた地上部のみを切除することで、 山岳地において貴重な土壌にダメージを与えず、オ オバコを除去することができます。根まで掘り返し てしまうと、掘り返したところの土壌が雨水等で流 れてしまうため、この方法で除去を行います



【根切りによるオオバコの除去の様子】

4. 体験概要

講義のあと、参加者は実際の除去作業に挑みました。当日は天気にも恵まれ、初夏の涼風吹くなか、参加者は黙々とオオバコを除去していました。除去作業は、ひたすらオオバコを切除するという簡単なもので、老若男女問わず参加することができます。今回も小学生以下の小さな子供達が参加しており、周りの大人とオオバコの除去量を競ったり、時折、自然のなかを走り回ったりと、作業の時間を楽しんでいる様子でした。このようなイベントに参加することで、自然の面白さや、自然環境、あるいは環境問題に興味を持つ子供達が増えてほしいと願います。

除去したオオバコは、重量測定したのち、石川県 が運営する白山自然保護センターにて処分していま す。なお、除去したオオバコの重量は約51kgでした。



【オオバコの除去の様子】



【除去したオオバコ】



【集合写真】

5. おわりに

白山の高山帯・亜高山帯に侵入・定着してしまった外来植物を根絶するのは、決して容易なことではありません。白山の美しい自然を次の世代に残すために、地道な活動ではありますが、除去活動を継続してゆくことが重要だと考えています。

白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬は、石川県との共催により平成 22 年度から開催しておりますが、年々、協会員の参加者が増加していることから、本年度より単独開催としました。これまでに、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止とした年度もありましたが、無事に再開し、そして単独開催できるまでに発展したことを嬉しく思っています。また、参加いただいている皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。

当支部では、これからも継続して白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬を開催していきたいと考えていますので、白山の豊かな生態系や美しい景観を守っていくために、協会員の更なる参加をお願い申し上げます。

お知らせ

技術セミナー 「グリーンインフラがもたらす新潟の未来」 開催報告

〈技術部会 建設環境委員会〉

1. はじめに

近年の社会資本整備では、自然環境が有する機能を 社会における様々な課題解決に活用しようとするグリーン インフラの考え方が注目されています。新潟県において もグリーンインフラの取組みにより、今後、防災・減災、 地域振興、環境保全などの面で多様な効果がもたらされ ようとしています。そこで、グリーンインフラの取組内容 や効果を知り、建設コンサルタントとして今後の社会資本 整備に欠かせないグリーンインフラに関する知識を養うこ とを目的に、技術セミナーを開催しました。

2. プログラム

1)場所:水の駅「ビュー福島潟」6階展望ホール

2) 日時:令和5年8月10日(木)13:30~17:00

3) 参加:協会員14名

4) 次第

講義①:北陸地方整備局におけるグリーンインフラの 取組み/北陸地方整備局河川部 建設専門官 渡辺 洋氏

講義②:湿地の多面的な役割と効果~国際湿地都市 NIIGATAの取組み~/新潟市環境政策課 主査 高橋 良氏

グループ討議「グリーンインフラとしての福島潟の利 活用」/コーディネーター 若尾 明弘 (建設環 境委員)

3. 開催概要

はじめに、以降の講義を行いました。

3-1. 講義: 北陸地方整備局におけるグリーンインフラ の取組み

グリーンインフラとは、ハード・ソフト両面で自然 環境が有する多様な機能を活かして、持続可能で魅力 的な都市・地域づくりを進める取組みであり、自然環境に関する社会的な要望が高まると同時に、土地利用の変化や気候変動に伴う災害リスクの増大といった課題への対応のひとつとして注目されている。



北陸地方整備局河川部 建設専門官 渡辺 洋氏

北陸地方整備局管内の各水系では、流域全体でグリーンインフラ整備を推進するための様々な取組みが行われている。そのひとつである自然再生・多自然川づくりの取組みでは、北陸地方の特色を踏まえた豊かな水辺環境の再生・保全・創出を目指している。例えば、阿賀野川ではハクチョウ類のねぐらとなる浅場の再生や、河原(ワンド)の整備の取組み、千曲川では河道掘削や河道内の樹木を伐採することで自然の営力による砂礫河原の保全・再生を目指す取組みが行われている。

次に、魅力ある水辺空間・賑わいを創出するグリーンインフラの取組みでは、河川空間とそれに繋がるまち空間を活性化する「かわまちづくり」がある。北陸地方整備局管内では16箇所でかわまちづくりを推進しており、好事例である新潟市街にある信濃川やすらぎ提では、堤防上で毎年開催されるミズベリングでのオープンカフェや様々な体験イベントが好評を博している。福島県湯川村の佐野目地区では、阿賀川沿いに

かわまちづくり・河川防災ステーション・道の駅を一体的に整備し、供用開始以降年間 100 万人が訪れる地域振興の拠点となった。

生物多様性を活用して地域活性化する生態系ネットワークの取組みでは、越後平野を舞台に「えちごエコネット」として、トキ等の大型水鳥類を指標に、国や自治体、市民団体等が協同して地域振興と生息環境保全を行うための行動計画を検討している。現在、福島潟をモデルプロジェクトとして、近隣の飲食店の協力のもと福島潟の豊かな自然環境を楽しむオープンカフェが試行運営されている。また、今後は地元の酒・米のエコブランド化など、さらなる広がりを目指している。

3-2. 講義: 湿地の多面的な役割と効果〜国際湿地都市 NIIGATA の取組み〜

新潟市は全面積の44%を湿地が占めており、その多くが水田としての利用である。かつては無数に存在していた湖沼は、数百年間にわたる干拓や放水路の整備により、16の潟が残存するのみとなった。しかし現在では、各地域の住民が中心となって、泥上げなどの潟の保全活動を行っていることに加え、イベントなどでの利活用が行われ、豊かな自然を楽しむ機会が設けられている。また、新潟市は冬季の気温が比較的温暖で、潟の水が凍結しないことや、積雪が少ないことから、毎年、ハクチョウなどの多くの渡り鳥が飛来・越冬する。

これらの豊かな自然や地域の活動により、新潟市は、 令和4年11月にスイスのジュネーブで行われたラム サール条約の締約国会議 COP14で「湿地自治体認証」 受けた。その会場では新潟市の潟をはじめとする湿地 の保全・利活用に関する発表などを行った。

これを受け、令和5年6月には、フランスのアミアン市で行われた国際湿地都市ネットワーク市長会議に初めて参加した。この会議では、中国の東営市、ハンガリーのタタ市、韓国済州島のソギイポ市の3都市に交じって発表を行ったほか、パネルディスカッションでは湿地の保全に対する住民の関わり方などを話し合った。

会議後のフィールドワークでは、市の中心部を流れるソンム川河川敷の湿地庭園をボートツアーでめぐり、地域住民による様々な利活用の状況を学んだ。ま

た、多くの学生ボランティアが解説などの運営サポートを務めている様子がみられた。



新潟市環境政策課 主査 高橋 良氏

この会議を通して、各都市の湿地で共通する状況を確認できた。湿地の保全には手間と費用が発生する一方で、住民による利活用やエコツーリズムなどの可能性を秘めている。その実現には、担い手の育成が重要である。総じて、いずれの都市も湿地に関して明るい展望を持っていることを強く実感できた。

新潟市においても、ウガンダ共和国が佐潟の視察に 訪れるなど、世界へ湿地の情報を発信する取組みが行 われている。また、湿地の保全活動としては、佐潟に おけるハスの再生、水質管理、特定外来種ミドリガメ (ミシシッピアカミミガメ)の駆除などの取組みも引 き続き行っていく。

湿地自治体認証を通して、このような取組みに対する意識が高まり、世代を超えて引き継がれ、活発になることを願っている。

3-3. グループ討議「グリーンインフラとしての福島潟の利活用」

以上の講義を受け、「福島潟×○○」をキーワードに、 グリーンインフラとしての福島潟の利活用方法を参加 者全員でグループ討議しました。このときのグループ は、福島潟にちなんで、「オオヒシクイ」、「ハクチョウ」、 「オニバス」の3グループとしました。

以降にグループ討議結果の概要を記します。

①オオヒシクイ班

(熊川毅、廣井敏樹、樺澤絢美、辰橋浩二) 福島潟×自然

【概要】福島潟のもつ「食」「景観」「生物」の魅力を 通して人を呼ぶため、施設の整備やイベントで地域内 外へアピールし親しみを持ってもらう。

- ・潟素材の料理 (郷土料理等) の提供
- ・景観を活かしたキャンプ及びサウナ施設等の整備
- ・自然を楽しむジップライン等の整備
- ・外来種駆除イベント等の体験学習
- ・自然環境を利用したトライアスロン等の開催

②ハクチョウ班

(小野豪、近藤伸介、竹野茂樹、武石沙織、高橋良) 福島潟×エコツーリズム

【概要】エコツーリズムによって福島潟を活かす方法 に関して、5つのSの視点で取組を行う。

- ・「SPA」…温泉、サウナ施設
- ・「STAY」…グランピング施設
- ・「SPORTS」…カヌーや潟舟、自転車、新世代モビ リティなどアウトドア・アクティビティ
- ・「STUDY」…環境学習、自然体験(ザリガニ捕獲等)
- ・「STRETCH」…潟カード

③オニバス班

(小池剛、臼木知恵、新田川貴之、征木太) 福島潟×子ども

【概要】様々な体験を通して子どもの記憶に福島潟を 残すとともに、広域的な広報により、世代を超えて引 き継がれることを目指す。

- ・職業体験や環境イベント(外来種駆除等)の開催
- ・ 合宿の誘致
- ・PTA や学生ボランティアとの協力体制の構築
- ・SNS (Instagram 等) による密な魅力発信 (四季折々の福島潟を発信し続けることで国内外へ PR)



オオヒシクイ班の発表の様子



ハクチョウ班の発表の様子



オニバス班の発表の様子

4. 今後の展開 (おわりに)

本技術セミナーの開催にあたっては、北陸地方整備局、 新潟市をはじめとする関係機関より多大の協力をいただ きました。ここに感謝の意をここに評します。

さて、建設環境委員会では、毎年、建設環境に関連 する技術セミナーを開催しています。来年度も是非参加く ださい。

お知らせ

令和5年度 北陸支部防災演習

〈災害対策部会・総務委員会〉

1. はじめに

昨年度の北陸支部地域における比較的規模の大きな 災害は、8月上旬の新潟県村上市、関川村などでの記録 的な大雨による河川の氾濫、浸水被害、土砂災害の発生、 12月中旬以降の同県下越・中越を中心とした記録的な 大雪による高速道路の通行止め、車両の立ち往生でした。 また、富山県、石川県においても大雨等による災害が発 生するなど、北陸支部地域だけみても災害は頻発してお り、全国的にも激甚化・広域化しつつある傾向となって います。

このような点からも建設コンサルタントが担うべき役割が一層大きくなりつつある状況です。

2. 演習の概要

災害に対する備えの重要さから、毎年9月1日は午前は北陸支部、午後は建設コンサルタンツ協会本部(以下「建コン協本部」という。)による防災演習を実施しています。

本稿では北陸支部防災演習について整理します。

- ①日時:令和5年9月1日(金)8:30~11:30 ※同日の13時から15時は建コン協本部による災害 時対応演習を実施。
- ②目的:現地本部と関係機関や会員会社による初動時 の円滑な情報伝達とオンラインによる情報共 有に取り組む
- ③想定災害:長岡平野西縁断層帯による地震災害
- ④参集場所:興和ビル10階会議室(新潟市)
- ⑤演習に参加した関係機関:
 - ・国土交通省北陸地方整備局(以下、「北陸地整」という。)
 - ・(一社) 全国地質調査業協会連合会北陸地質調査業協会(以下、「全地連北陸」という。)
 - ・(一社) 全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会 (以下、「全測連北陸」という。)

⑥参集者

[**現地本部**] 吉野支部長、大平副支部長、渡邊運営委員長、髙橋技術総括指揮者、田﨑副責任者、

青木総務部会長、清原総務委員長、佐藤(雄)委員、 浜辺委員、今野委員、熊倉委員

[富山] 古池技術総括指揮者

[石川] 西川副責任者、[事務局] 佐々木事務局長 [現場出動] 田村、須藤(開発技建(株))





写真-1 災害対策北陸現地本部の様子

3. 演習のポイント

(1) 昨年度演習の課題対応

1) 返信メールの社名記載

昨年度の演習は、会員会社への被害状況や調査派遣 対応の確認に対する回答は、メール文に直接記載しても らうとともに、どの会社からの返信か分かるようにメール 件名に社名を入れてもらうことにしました。その結果、新 潟地域で5社、富山地域で4社から社名記載無しとい う状況でした。

今年度は返信時の件名に社名を入れることを忘れない よう、当該箇所を目立たせた表示にして取り組むことにし ました。

2) 携帯電話メールの未活用

昨年度の各社の正・副災害担当責任者へのメール連絡は、外出や会議等の場合でもメールを確認できるように携帯電話メール(アドレス連絡者に限る)宛にも行っていました。しかし、PC 宛にメールすれば携帯電話メールにも転送される仕組みにしている方が少なくないことから、今年度は連絡方法の煩雑さを避けて携帯電話メールへの連絡はしないことにしました。

(2) オンラインによる関係機関等との情報共有

1) 合同現地踏査の実施

今年度はタブレットを用いた LIVE 配信による橋梁の 緊急点検を行うことにしました。緊急点検では、実際に 現地に出向き (千歳大橋)、そこから配信して北陸地整、 全測連北陸、全地連北陸、現地本部関係者がリアルタ イムで現地状況を共有します。

2) 合同会議

昨年と同様に、応援要請に基づいた北陸支部、全測 連北陸、全地連北陸との分担確認や富山・石川の技術 総括指揮者等からの状況報告を行います。

4. 演習スケジュール

主なスケジュールを表 -1 に示します。

表-1 スケジュール

時分	項目	情報	伝達
바다기	次ロ	発信者	受信者
6:00	地震発生	長岡平野西縁断層帯で	で M w7.5 の地震発生
8:30	支援要請	北陸地整 防災室	新潟技術総括指揮者
8:40	参集確認	新潟技術総括指揮者	支部長
8:45	参集連絡	新潟技術総括指揮者	支部長、新潟副支部長、 運営委員長、総務部会長、 新潟副責任者
		総務部会長	新潟総務委員
9:15	北陸支部会議	北陸支部にて現地本部設置	に関する協議
9:20	災害対策北陸現地本部設置	現地本部(事務局)	支部会員会社・災害対策委員 富山・石川の技術総括指揮者・ 副責任者 北陸地整 全測連北陸、全地連北陸
~ 9:25	要請内容の詳細連絡	北陸地整 防災室	現地本部(新潟副責任者)
0.20	SART THE THE MAKEUM	現地本部(新潟副責任者)	新潟の正・副災害担当責任者
9:25	会員会社の状況把握	富山・石川の技術総括指揮者又は副責任者	
9:25 ~ 9:35	要請内容の共有・分担確認	現地本部(現地本部長、新 潟技術総括指揮者)	全測連北陸、全地連北陸
9:35 ~ 10:00	LIVE 映像による 合同現地踏査	現地本部(現地本部長、新 潟技術総括指揮者)	北陸地整 防災室 全測連北陸、全地連北陸 富山・石川の技術総括指揮 者又は副責任者、緊急点検 対応会社
10:25	会員会社の状況報告 [要請から 1 時間経過時]	総務部会長 富山・石川の技術総括指揮 者又は副責任者	現地本部
10.25	関係団体からの報告	全測連北陸、全地連北陸	.Ⅲ+₩·★·郊
10:35	支部対応可能会社の報告	総務部会長	現地本部
11:00	支援要請に対する報告	現地本部 (新潟技術総括 指揮者)	北陸地整 防災室
11:25	会員会社の状況報告 [要請から2時間経過時]	総務部会長 富山・石川の技術総括指揮 者又は副責任者	現地本部
	【災害発生より 90	- 日経過を想定 令和 5 年 12	月 1 日】
11:30	災害対策北陸現地本部解散	現地本部(事務局)	支部会員会社・災害対策委員 富山・石川の技術総括指揮者・ 副責任者
			北陸地整 防災室 全測連北陸、全地連北陸

※「項目」の網掛け部は WEB による取り組みを示す

5. 演習の結果について

(1) 課題対応について

北陸支部会員数は昨年度と同様の61社である。

返信メールの社名未記載は全体で2社であり、昨年度の9社に比べて減少しました。加えて、各社の正・副災害担当責任者からは両者で確認のうえ、いずれかからの返信を依頼しましたが、2社から重複した返信がありました。

表-2 社名未記載と重複返信の状況

	新潟地域	富山地域	石川地域
メール件名に会社名未記載	2社 (5社)	0 社 (4 社)	0社(0社)
正・副の両者から連絡が届いた	2社 (0社)	0社(0社)	0社(0社)

※()はR4年度の状況を示す

なお、今回は携帯電話メールを止め担当者 PC 宛のみにメール連絡したところ、昨年と同様の高い返信率で全社から連絡を得ることができました。

表-3 メールの時間別返信状況

訓練では1時間以内回答を求めて実施

	+144	返信時間		
	対象 会社	1 時間以内	1 時間を超え 2 時間以内	計
新潟地域	43 社	41 社	2 社	43 社
富山地域	11 社	10 社	1 社	11 社
石川地域	7 社	7 社	-	7 社
合計 [返信率]	61 社	58 社 [95%]	3社	61 社 [100%]
参考:R4年度 [返信率]	61 社	58 社 [95%]	3 社	61 社 [100%]

(2) オンラインによる関係機関等との情報共有





写真-2 タブレットを用いた緊急点検

タブレットを用いた LIVE 配信による橋梁の緊急点検 (合同現地踏査)では、通信障害などなく、参加者から は支障なく確認することができたという結果でした。

北陸地整からは、今後の対応などに関して以下の意見 を頂きました。

- ①現地からの映像は思ったよりも良く確認できた。今後、 有事の際や曇りなど悪天候の際はどの程度、映像を 確認することができるかという点を感じた。
- ②着目する部位は静止画にして発信したり、離れている場所を映す場合はズーム機能があると現地調査員の移動が少なく済んでよいと感じた。



写真-3 合同現地踏査時の北陸地整の様子



写真-4 合同現地踏査時のオンライン画像

北陸支部、全測連北陸、全地連北陸との分担確認や 富山・石川の技術総括指揮者等からの状況報告をWEB にて行いましたが、こちらについては、富山との接続に一 時、手間取ったものの、支障なく取り組むことができまし た。

(3) 北陸地方整備局長からのご意見

今回の演習では、予定されていなかった遠藤局長の参加がありました。

遠藤局長から以下の意見をいただきました。

①いざ災害が発生した際は総力戦となる。初動時の現 状把握は極力スピーディーに対応することが求められ る。そのような場合などは建設コンサルタンツ協会の 役割は一層、重要になってくる。

②実践は無いに越したことはないが、備えは重要。今後、 様々な災害が発生した際は協力をお願いしたい。





写真-5 北陸地方整備局長との確認の様子

6. 課題

今回の演習では大きな課題はなかった。今後、北陸地整からいただいた意見も参考としながら、新たな技術への対応も視野に入れつつ、初動時の確実な対応につながるべく、基本的な情報伝達の充実に向けて取り組んでいきたいと思います。

7. おわりに

お忙しい中にも関わらず北陸支部の防災演習に参加 していただきました北陸地方整備局、(一社)全国測量 設計業協会連合会北陸地区協議会、(一社)全国地質調 査業協会連合会北陸地質調査業協会、そして橋梁の緊 急点検に出動していただきました開発技建(株)の皆 様に多大なるご協力を頂きましたことを、本誌面をお 借りして感謝申し上げます。

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 会 員 名 簿

令和5年10月1日現在

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋㈱	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
㈱エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建㈱		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質㈱	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通1-2-34 尾山ビル	025-257-1888 025-257-1880

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
㈱建設環境研究所	新潟支店	950-0915 新潟市中央区鐙西1-7-5 エスポワール新潟1F	025-282-7385 025-282-7387
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
㈱建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業㈱	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
株国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術傑	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本ダイヤコンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
舘下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発㈱	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
㈱長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	951-8061 新潟市中央区西堀通6番町866 NEXT21ビル	025-226-4330 025-226-3033
㈱東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
㈱東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
株ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区網川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
NiX JAPAN(株)		930-0857 富山市奥田新町1-23	076-464-6520 076-464-6671
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
㈱日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル5F	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	951-8067 新潟市中央区本町通7番町1153 新潟本町通ビル	025-224-1285 025-224-1286
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニヤリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

役員·委員会名簿

令和5年10月1日現在

北陸支部役員			
支部理事	支部長	吉 野 清 文	開発技建㈱
"	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
"	副支部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
"	副支部長	新 家 久 司	㈱国土開発センター
"	運営委員長	渡邊 雅 樹	開発技建㈱
"	運営委員	黒 木 康 生	㈱日本海コンサルタント
"	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
"	運営委員	笹 谷 輝 彦	㈱国土開発センター
"	運営委員	大 浜 正 人	㈱建設技術研究所
"	運営委員	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
"	運営委員	岩 澤 弘 和	㈱構造技研新潟
支部監事	支部監事	佐々木 大介	(株)ナルサワコンサルタント
"	支部監事	高 野 一 博	大原技術㈱

対 外 活 動 部 会						
	部会長	吉	野	清	文	開発技建㈱
	部会員	大	平		豊	エヌシーイー(株)
	部会員	渡	辺	正	三	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新	家	久	司	㈱国土開発センター
	部会幹事	坂	上		悟	開発技建㈱
	部会員	田	中	義	明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長	森	孝	司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡	部	長	務	エヌシーイー(株)
	部会員	Щ	田	幸	男	㈱建設技術研究所
新潟地域委員会	委員長	岩	澤	弘	和	㈱構造技研新潟
"	委 員	田	邉	敏	夫	(株)クリエイトセンター
"	委 員	中	田	_	男	開発技建㈱
"	委 員	坂	西	和	也	エヌシーイー(株)
"	委 員	坂	井		徹	旭調査設計(株)
"	委 員	外	Ш	忠	利	(株)キタック
富山地域委員会	委員長	柴	田		聡	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	田	中	義	明	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	吉	田		勉	(株)上智
"	委 員	泉		英	樹	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	榮		知	之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新	家	久	司	㈱国土開発センター
"	委 員	長	森	孝	司	(株)日本海コンサルタント
"	委 員	=	俣		秀	㈱国土開発センター

総務部会				
	部会長	青 木	和 之	エヌシーイー(株)
総務委員会	委員長	清 原	宏 二	開発技建㈱
"	委 員	熊 倉	孝 次	(株)クリエイトセンター
"	委 員	佐藤	雄一	㈱構造技研新潟
"	委 員	泉	英樹	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	浦	正光	(株)日本海コンサルタント
"	委 員	浜 辺	良 彦	相互技術傑
"	委 員	今 野	健	エヌシーイー(株)
倫理・法令委員会	委員長	須 田	玲	エヌシーイー(株)
"	委 員	飯 田	雅之	開発技建㈱
"	委 員	青 木	秀 典	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	新田川	貴 之	㈱国土開発センター
"	委 員	河 原	健 二	㈱日本海コンサルタント

技術部会			
	部会長	神 田 和 久	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	藤巻智之	開発技建㈱
"	委 員	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
"	委 員	大 塚 秀 行	(株)キタック
"	委 員	杉 野 亨	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	池渕稔	東京コンサルタンツ(株)
"	委 員	武 沢 直 貴	(株)日本海コンサルタント
"	委 員	加藤毅	(株)クリエイトセンター
"	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	伊 藤 信 哉	開発技建㈱
"	委 員	阿左美 敏 和	㈱建設技術研究所
"	委 員	西川幸成	㈱国土開発センター
"	委 員	藤原大佑	五大開発(株)
"	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	浦 田 斉	エヌシーイー(株)
"	委 員	波多野 勝 弘	相互技術傑
"	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木 村 浩	エヌシーイー(株)
"	委 員	須 佐 慎	開発技建㈱
"	委 員	吉 田 要	(株)クリエイトセンター
"	委 員	相 田 守	(株)キタック
"	委 員	木 下 裕 康	㈱国土開発センター
"	委 員	美作 知 弘	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	藤本勇一	㈱東洋設計

		11-th Le-th	+r: 11a	1 5 4 2 2 2 2 2 2 3 1 (14)
橋梁委員会	委員長	脇坂	哲 也	大日本コンサルタント(株)
"	委員	田村	康裕	開発技建㈱
"	委員	渡邉	敦	エヌシーイー(株)
"	委 員	門口	健 吾	(株)キタック
"	委 員	佐藤	良晴	㈱構造技研新潟
"	委 員	浦	修造	㈱国土開発センター
"	委 員	鷹 西	輝	㈱東洋設計
"	委 員	寺 田	直樹	㈱開発技術コンサルタント
"	委 員	塚嶋	雅則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	須 貝	浩	エヌシーイー(株)
"	委 員	今 度	充 之	東京コンサルタンツ(株)
"	委 員	麻 田	正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
"	委 員	松尾	内 助	(株)キタック
"	委 員	長谷川	哲也	サンコーコンサルタント(株)
"	委 員	辻 本	勝彦	㈱国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩 渕	和有	エヌシーイー(株)
"	委 員	村 田	亨	開発技建㈱
"	委 員	莊 司	洋 文	(株)キタック
"	委 員	森 川	大 輔	(株)国土開発センター
"	委 員	酒井	信次	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	眞 島	俊光	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	竹 内	聡	開発技建㈱
"	委 員	稲 葉	弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
"	委 員	若 尾	明 弘	エヌシーイー(株)
"	委 員	竹 野	茂 樹	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	上 田	拓 哉	(株)日本海コンサルタント
"	委 員	辰 橋	浩二	㈱国土開発センター
"	委 員	廣井	敏 樹	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	中 野	達也	(株)日本海コンサルタント
"	サブリーダー	小 倉	匡 介	開発技建㈱
"	委 員	濱田	康 行	(株)国土開発センター
"	委員	庭山	雄太郎	大日本コンサルタント(株)
"	委員	小 口	祐樹	(株)キタック
"	委員	杉田	友 樹	(株)建成コンサルタント
"	委員	本間	千 悠	㈱構造技研新潟
"	委員	佐久間	佑 多	相互技術㈱
"	委員	楡井	————— 将 真	エヌシーイー(株)
	l			<u>l</u>

広報 部会			
	部会長	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
広報委員会	委員長	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
"	委 員	飯 田 亙	㈱開発技術コンサルタント
"	委員	新 保 和 広	相互技術㈱
"	委 員	本 間 健太郎	(株)ナルサワコンサルタント
"	委 員	高 澤 正 浩	㈱構造技研新潟
"	委 員	加藤克裕	(株)キタック
"	委 員	泉 田 洋	八千代エンジニヤリング(株)
"	委 員	本 間 拓 海	㈱建設技術研究所
"	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
"	委員	大 蔵 欣 司	㈱建成コンサルタント
"	委 員	島 由治	アルスコンサルタンツ(株)
"	委 員	新 家 哲 平	㈱国土開発センター
会誌編集委員会	委員長	高 橋 宏 明	開発技建㈱
"	委 員	澤田伸也	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	古 橋 伸 彦	㈱日本海コンサルタント
"	委 員	太 田 博 昭	㈱国土開発センター
"	委 員	山 田 嘉 貴	㈱クリエイトセンター

災害対策部会					
	部会長	吉 野	清	文	開発技建㈱
新潟現地対策本部	本部長	吉 野	清	文	開発技建㈱
"	副本部長	大 平		豊	エヌシーイー(株)
"	技術総括指揮者	髙 橋	邦	夫	開発技建㈱
"	副責任者	田崎	友	康	開発技建㈱
富山現地対策本部	本部長	吉 野	清	文	開発技建㈱
"	副本部長	渡辺	正	三	大日本コンサルタント(株)
"	技術総括指揮者	古 池		豊	大日本コンサルタント(株)
"	副責任者	青 木	秀	典	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	吉 野	清	文	開発技建㈱
"	副本部長	新 家	久	司	㈱国土開発センター
"	技術総括指揮者	七郎丸	_	孝	㈱国土開発センター
"	副責任者	西川	幸	成	㈱国土開発センター
災害対策委員会	委員長	髙 橋	邦	夫	開発技建㈱
"	委 員	青 木	和	之	エヌシーイー(株)
"	委 員	坂 上		悟	開発技建㈱
"	委 員	古 池		豊	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	増山	繁	雄	北陸コンサルタント(株)
"	委 員	田中	義	明	大日本コンサルタント(株)
"	委 員	七郎丸		孝	㈱国土開発センター
"	委 員	長 森	孝	司	(株)日本海コンサルタント
"	委 員	武沢	直	貴	(株)日本海コンサルタント

事 務 局				
	事務局長	佐々木	清 一	

編集後記

今号より雪の音会誌の編集に参加させていただきます山田と申します。未熟者で はありますが、雪の音作成に向けて、努力させていただきます。

2023年の夏の暑さ・水不足は異常気象と言っても良いでしょう。

五泉市の早出川で8月31日に、阿賀野川河川事務所が地元の小学生を対象にした 水生生物の調査会を開催されたようです。上流の早出川ダムの貯水率は、わずか3% ほどと少なく、早出川の水位も低下しているとの事でした。

このニュースを見ていた母 (村松町出身) が早出川の読み方は「はやでがわ」「はやいでがわ」「はいでがわ」等の読み方があると語り始めました。隣で母が暑く語ると、私の馬の耳に東の風が吹きました。

そんな時思い出したのが、新人の頃青森で研修した際の夏の記憶です。青森の夏といえば「ねぶた祭」です。しかし弘前の先輩からは「ねぶた」ではなく「ねぷた」だと情熱的に言われました。これも馬耳東風でした。

若い頃の私には、地域に根付く文化・言葉を大切にする想いはなかったのですが、この歳になりますと、文化・言葉のありがたさを感じるようになりました。雪の音編集を通じて、地域に根付く文化を紹介していきたいと思います。

最後になりましたが、今後とも雪の音をご愛読いただき、ご支援いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

山田嘉貴

発 行 / 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階 TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 / 高橋宏明

委 員 / 澤田伸也 古橋伸彦 太田博昭 山田嘉貴



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階 TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371 https://hr-jcca.jp/